

はじめに

千葉市環境保健研究所は、本市の政令指定都市移行に伴い1993年3月に、試験検査と調査研究機能を兼ね備えた科学的・技術的中核施設として設置され、保健衛生及び環境保全行政を推進するために専門的な知識及び技術を必要とする調査研究や試験検査に取り組んでいます。なお、2023年9月には、施設の老朽化に伴い、別の地に移転再整備したところです。

当所の使命は、市民の皆様が快適な環境のもとで健康な生活を送ることができるよう、広範多岐にわたる行政施策の効果的な推進に寄与し、公衆衛生の更なる向上に貢献することにあります。そのため、日々の業務は行政依頼の試験検査が多くの割合を占めており、精度管理に裏付けされた正確な結果を迅速に提供することを常に心掛け、実践して参りました。

さて、2024年は全国的に手足口病が大流行しました。本市においても同様でしたが、例年であれば30週（7月下旬）頃にピークを迎え、その後減少に向かうところが、去年は28週にピークを迎えた後、41週（10月上旬）で再びピーク（2回目）を迎えるなど、これまでとは異なる動きが見られたことから、感染症の発生動向を解析し、医療機関や市民に向けて発信することの重要性に再認識させられました。

また、各地で暫定基準値超えの報告が上がっている有機フッ素化合物（PFOS,PFOA）については、国が水質基準逐次改正検討会等を通じて水質基準設定に関する審議を重ねております。環境水や井戸水の検査を行う当研究所としても、今後の動向を注視しながら、検査体制の整備に努めて参りたいと考えております。

一方、国外に目を転じれば、昨年10月下旬からアフリカ コンゴ民主共和国において、原因不明の急性呼吸器感染症が広がり、WHOからは891人の患者が確認され48人が死亡したとの発表（12月27日現在）がありました。日本では社会的に大きな影響のあった新型コロナウイルス感染症が2023年5月に5類感染症に移行されたばかりでしたが、新たな感染症の可能性に、再び社会に大きな不安を抱かせるものでした。今年4月からは急性呼吸器感染症（ARI）に関する新たなサーベイランス事業が開始となります。迅速な情報収集と発信に努めるとともに、新興・再興感染症の発生などあらゆる事態に備え、更なる検査技術の向上に取り組んで参りたいと考えております。

結びになりますが、このたび、事業概要及び調査研究をまとめた令和5年度年報の発行の運びとなりました。ご高覧頂き、ご助言、ご教示いただければ幸いです。

2025年3月

千葉市環境保健研究所
所長 前嶋 寿